12月市長記者会見

市長記者会見

◆と　き：令和６年12月18日(水)
午前10時～

◆ところ：可児市役所５階全員協議会室

１　令和６年可児市重大ニュース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１

可児市市政企画部広報情報課
0574-62-1111　内線3323

１月開催予定日時
１月 30 日（木）午前 10 時～

令和６年　可児市重大ニュース

次のとおり、令和６年の重大ニュースを発表します。なお、順位付けはしていません。

１　可児市市政経営計画を策定（令和６年度～令和９年度）

２　19 年ぶりに人口 10 万人切る

３　ぎふワールド・ローズガーデン来園者 100 万人を達成

４　中日ドラゴンズとの連携を強化！

５　一般社団法人カニミライブを設立・可児市の特産品を使った第１号商品を発売

６　可児っ子海外交流訪問団を再開

７　可児御嵩インターチェンジ工業団地第１工区を分譲開始

８　かにっこ labo バスツアー2024 を開催

９　頑張る可児っ子を応援する新たな賞を創設

10　スマイリングルームを拡充

11　一五一会可児市大会を初開催

12　高齢者などの移動支援実施団体と連携した「モデル事業」を開始

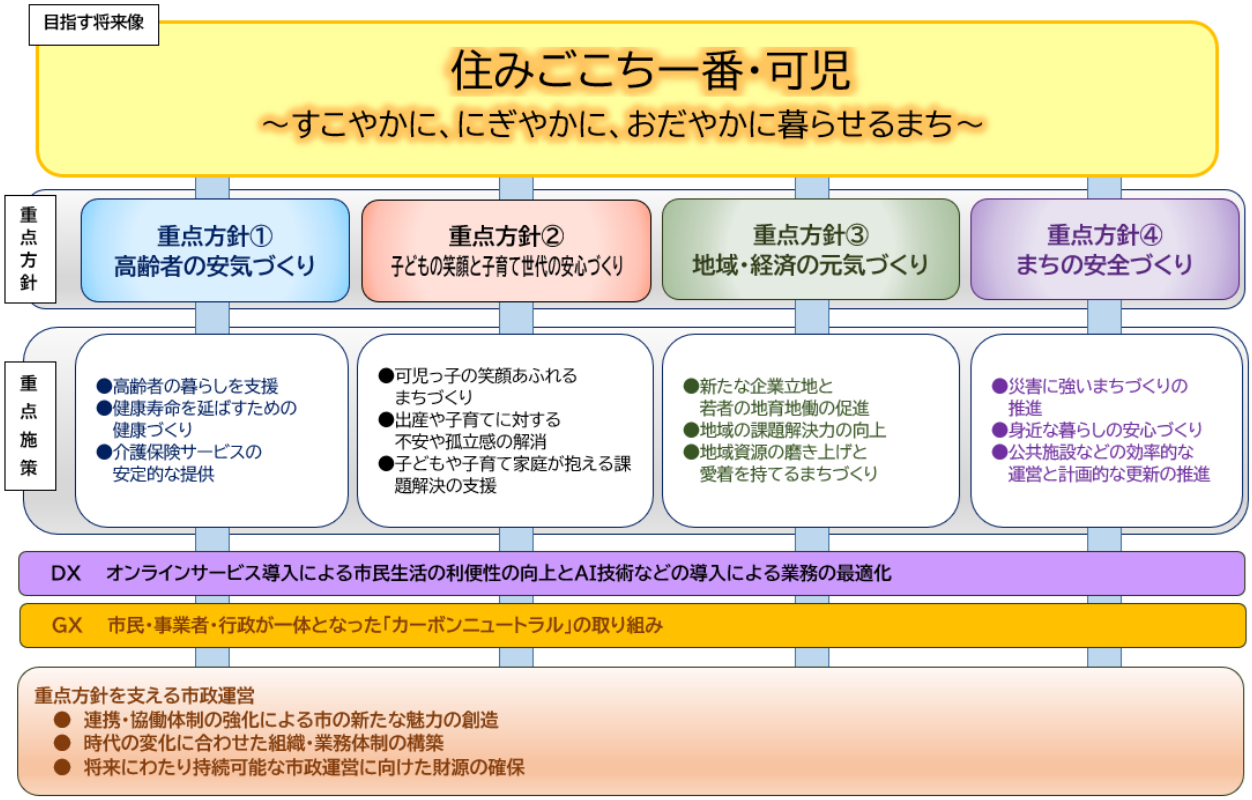
説明資料

1　可児市市政経営計画を策定（令和６年度～令和９年度）

人口減少や少子高齢化といった社会変化によって生じるさまざまな課題に適切に対応し、持続可能で暮らしやすいまちづくりを実現するため、令和６年度から令和９年度までの４年間において特に重点的に取り組むべき事項を選択・体系化した新たな市政経営計画を策定しました。

本計画では、「住みごこち一番・可児」を目指す将来像とし、４つの重点方針と、方針ごとに特に力を入れる重点施策を設定しています。

ＤＸ・ＧＸの推進や公民連携の活用など、新たな取り組みを進めながら、重点方針・重点施策に関する事業に着実に取り組むことにより、市民の皆さんがいつまでも心身ともに「すこやかに」、元気な地域・経済に支えられて、生きがいややりがいをもって「にぎやかに」、住み慣れたまちで不安なく「おだやかに」暮らせるまちづくりを進めていきます。

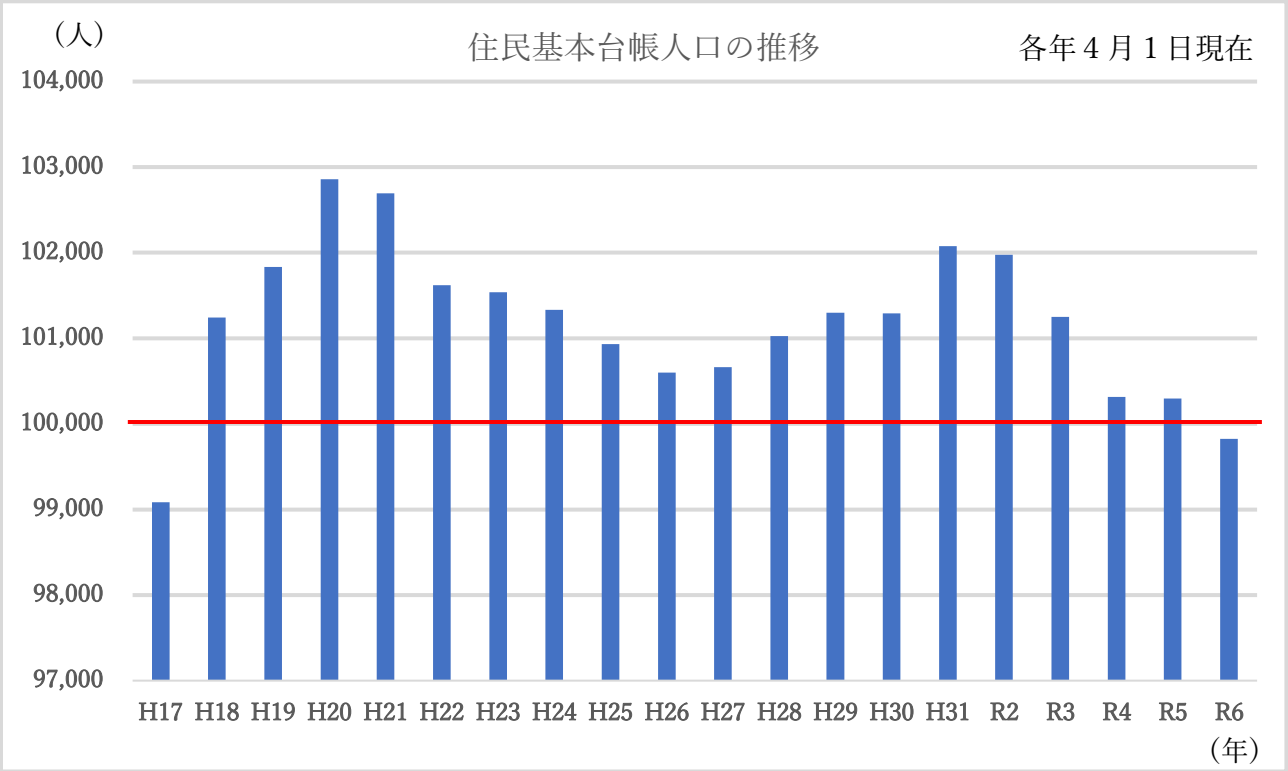


担当：秘書政策課

2　19 年ぶりに人口 10 万人切る

昭和 40 年後半から大規模な住宅団地の形成により定住人口が急激に増加し、一時期は年間 4,000 人以上増加してきました。平成 2 年からは外国籍市民の増加も加わり、平成 20 年 10 月 1 日に本市の住民基本台帳人口は過去最高の 10 万 3,538 人となりました。

しかし少子高齢化が進み、平成 17 年 5 月 1 日の兼山町と合併以降 10 万人を超えていた人口は 19 年ぶりに 10 万人を切り、令和 6 年 4 月 1 日に 9 万 9,826 人となりました。



担当：市民課

3　ぎふワールド・ローズガーデン来園者 100 万人を達成

5 月 4 日、世界最大級のバラ園「ぎふワールド・ローズガーデン」が、現在の名称に変わってから約 2 年 7 カ月で来園者 100 万人を突破しました。当日は記念セレモニーが行われ、可児市から可児そだち認定品セット（くくり米や古代米、そよご蜂蜜など）を 100 万人目の来園者に記念品として、贈呈しました。

担当：観光課

4　中日ドラゴンズとの連携を強化！

５月８日、市のスポーツ振興を基軸とした、楽しく笑顔あふれるまちづくりの推進を目的として、中日ドラゴンズとパートナーシップ協定を締結しました。

以前から関わりの深い球団ですが、今年はより一層連携を強化し、以下の取り組みを実施しました。

○広報かに７月号での広報協力（ドアラ掲載）

広報かにの表紙に、中日ドラゴンズの公式マスコットキャラクター「ドアラ」がユーモアのあるメッセージとともに登場しました。とても親しみやすいデザインで、ＳＮＳで拡散されるなど大きな反響がありました。

○住みごこち一番・可児市デーを開催

10 月６日、バンテリンドーム ナゴヤで行われた中日ドラゴンズの最終戦で、今年も「住みごこち一番・可児市デー」を開催しました。

昨年同様、市内小学生らの参加に加え、今年はドーム観戦者限定の抽選企画やＣＭ動画の上映などを通して、36,000 人以上の来場者に可児市の魅力をＰＲしました。

○野球体験会(キッズスクールキャラバン)を開催

元プロ野球選手が、10 月 10 日に瀬田幼稚園、11 月 21 日に土田保育園を訪れ野球体験会を開催しました。園児たちはボール遊びを通じて野球の楽しさに触れることができました。

○コラボ返礼品を開発（ふるさと応援寄附金）

市内の返礼品提供事業者のうち９つの事業者に、中日ドラゴンズと共同で 37 品目の返礼品を開発していただきました。

中日ドラゴンズのロゴを付したものや、マスコットキャラクターをパッケージにあしらったものなど多彩なものができました。

写真提供：中日ドラゴンズ

担当：秘書政策課（中日ドラゴンズとの協定など）
財政課（ふるさと応援寄附金）
広報情報課（広報かに）

5　一般社団法人カニミライブを設立・可児市の特産品を使った第１号商品を発売

５月 31 日、市と株式会社良品計画は、両者で締結した「地域活性化等に関する包括連携協定」に基づき、共同で一般社団法人カニミライブを設立しました。

株式会社良品計画が持つノウハウを生かし、可児市にある魅力的な地域資源の商品化や販路の拡大などを行います。将来的には、その収益の一部を活用し、子育て支援や健康・福祉、地域住民のくらしの安全・安心に関することなど、地域の活性化につながる事業を行います。

11 月 23 日には、第１弾の商品として株式会社恵那川上屋と協働で作った「かにたろうクッキー」を発売しました。市の特産品である里芋を使用した商品で、市場に出回らず、場合によっては捨てられてしまう部分を活用し、おいしさを生かすために適温で熱処理し、ペースト状にして練り込む工夫をしています。このクッキーに付けて味の変化を楽しめるコンフィチュール２種（くりミルク、はちみつジンジャー）も、可児市産の原料を中心に作り、合わせて発売しました。

AWARENESS COMES ONLY THROUGH PRACTICE
KANIMILIVE
地域商社

詳細はこちら

担当：秘書政策課（法人設立）
産業振興課（商品開発）

6　可児っ子海外交流訪問団を再開

７月 26 日から８月４日の 10 日間、公募で集まった「可児っ子海外交流訪問団」15 人を、「教育および文化における相互協力に関する協定」を締結している豪州レッドランド市などに派遣しました。これは、コロナ禍を経て、５年ぶりの再開となります。

派遣生たちは、ホームステイや学校体験、自然学習を通して、ホストファミリーや学校の友人との交流で異文化を楽しく実感しました。また、この経験が将来を考えるきっかけになったり、帰国後の英語学習や勉強面でのモチベーションの向上につながったりするなど、有意義な時間を過ごすことができました。

担当：地域協働課

7　可児御嵩インターチェンジ工業団地第１工区を分譲開始

市が造成工事と分譲募集を行ってきた可児御嵩インターチェンジ工業団地の第 1 工区 3 区画が計画どおり完成しました。

7 月 26 日に岐阜・大成化工株式会社、 9 月 25 日には Y.S.PANERIO 株式会社に土地の引き渡しを行い、操業開始に向け準備が始まりました。今後、地域経済の発展のために相互に協力していきます。

なお、第２工区２区画は、来年の分譲に向け、現在工事を進めています。

担当：企業誘致課

8　かにっこ labo バスツアー2024 を開催

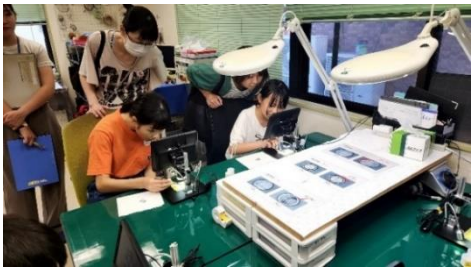
子どもとその保護者が市内企業を訪問し、工場や作業場の見学、ワークショップを通して、地元企業の魅力や優れた技術力を肌で感じ、地元の〝カッコイイ〟仕事を体感するバスツアーを開催しました。第１弾を８月 23 日に、第２弾を 11 月 30 日に開催し、小学５年生から中学２年生までの児童生徒とその保護者、計 111 人が参加しました。

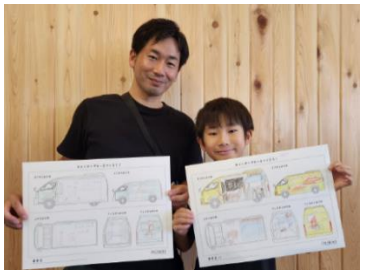
当日は午前と午後にそれぞれ１社の企業に訪問し、製造現場の見学や各企業の特色が感じられるワークショップを行いました。

参加者からは、「とてもわくわくした」「普段見ることができない世界を、楽しく学ぶことができた」といった体験に対する感想や、「将来ここで働いてみたいと思った」「社員さんの雰囲気がとても良かった」など、現場で働く人の魅力や地元企業への関心の高まりを感じさせる感想が寄せられました。

かにっこlabo BUS TOUR 2024 地元のカッコイイを探しにいこう

なお、「かにっこ labo」という名称は可児の子どもを表す「かにっこ」、研究所を意味する「ラボ」、２つの言葉をつなげて企業との協業を意味する「コラボ」を意味しています。





担当課：産業振興課

9　頑張る可児っ子を応援する新たな賞を創設

○スマイル輝き大賞を決定

「可児市児童生徒科学・社会科作品展」に出展された作品のうち、特に市への関心や愛着を感じる 27 作品を「可児っ子の笑顔づくり事業」として表彰しました。

スマイル輝き大賞、スマイル輝き賞を受賞した６人については、10 月 11 日に可児市役所で表彰式を行いました。

作品には、郷土料理「さよりめし」、農作物ブランド「可児そだち」、多文化共生、市の観光マップや歴史など、可児市のじまんやほこりを感じる多種多様な研究がありました。

○「笑顔の“もと”」奨励賞を決定

12 月１日、市教育委員会表彰式に併せて、「笑顔の“もと”」奨励賞を表彰しました。

この賞は、成績や数字で表れにくい努力や研さんなどに着目し、今だけでなく未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」を育んだ児童生徒などを表彰するものです。

なお、表彰者はそれぞれの学校長の推薦によって決定され、７人８団体の皆さんが表彰されました。

担当：秘書政策課(スマイル輝き大賞)
教育総務課(「笑顔の“もと”」奨励賞)

10　スマイリングルームを拡充

10 月 15 日、不登校の児童生徒のための「第 3 の居場所」として拡充整備してきた市教育支援センター「スマイリングルーム」が坂戸の老人福祉センター「可児川苑」の一角に完成し、オープンしました。

スマイリングルームは、さまざまな理由により学校に通いにくくなった児童生徒の心の安定を図り、自分らしく学習や生活できるように支援する場所です。また、学校に行きにくさを感じている児童生徒およびその保護者のさまざまな悩みに応える教育相談を行う場所でもあります。

今回の拡充の目的は、「一人一人に応じた多様な学び場」をつくることです。実際に、個室と支援員が増えたことで、静かに勉強がしたい、テストを受けたいといった児童生徒の要望に幅広く対応できるようになりました。また、みんなが集まることができる広いホールができたことで、児童生徒のコミュニケーションが広がり、友だちができ、他の子とかかわりを持つことの喜びを感じた子もいます。

さらには、地域の自然を利用し、作物づくりや河川での水辺探索活動などさまざまな体験活動を行うことができるようになりました。

なお、旧スマイリングルームの場所はニコニコルームとして活用しており、どこにも通うことが困難だった児童生徒が、集団生活の適応に向けて、少人数の静かな空間の中で、個々の実態に応じて活動することができます。

市教育支援センターは、「児童生徒を学校に戻れるようにする」ことだけを最終目的にせず、まずは子どもたちの居場所づくりや未来の笑顔につながる支援を心がけていきます。

担当：教育研究所

11　一五一会可児市大会を初開催

11 月 2 日、文化創造センター・アーラで「一五一会可児市大会」を初めて開催しました。

「一五一会」は平成 14 年に株式会社ヤイリギター(下恵土)とＢＥＧＩＮが共同で開発した可児市生まれの楽器です。誰でも簡単に弾き語りができ、可児市ならではの魅力の 1 つでもあります。

大会では、1 部では可児市の子どもたちとその家族などからなる 5 チームが、2 部では一五一会のサークル活動を行っている 2 チームが演奏を発表しました。1 部に出演した 5 チームは一五一会初心者でしたが、夏休みから 3 カ月にわたり、株式会社ヤイリギターの講師のもと、講座や自宅練習などで腕を磨き、大会に臨みました。

大会当日は、どのチームも素晴らしい演奏で、訪れた多くの人々に一五一会の魅力を伝えました。

担当：秘書政策課

12　高齢者などの移動支援実施団体と連携した「モデル事業」を開始

65 歳以上の高齢者や公共交通による移動に支障がある人などに移動支援や同行支援を行う自治会などの団体に対し、市が借り上げた車両を無償貸与する取り組みなどを「可児市住民参加型移動支援モデル事業」として今年度から開始しました。

モデル事業の実施団体を公募し、愛岐ケ丘自治会支え愛の会“笑顔”、桜ケ丘ハイツ地区社会福祉協議会、若葉台自治会の 3 団体を認定しました。

11 月 18 日、モデル事業の第 1 号となる車両を若葉台自治会に貸与しました。他の 2 団体に対しては、今後順次貸与を開始していきます。

担当：高齢福祉課